



**城崎に届いた慰問品** 大正14年5月23日、マグニチュード6.8の北但馬地震が発生。豊岡、城崎を中心に大被害をもたらした。写真は城崎駅(現城崎温泉駅)に届いた慰問品の山。同12年の関東大震災では、兵庫県が横浜に救援物資を送ったが、その返礼として横浜から大量の物資が届けられた。〈豊岡市城崎町今津・大正14年・提供=四角澄朗氏〉



**湯村温泉祭りの菖蒲綱引き** 〈新温泉町湯・大正5年頃・提供=福島祥介氏〉



**竹野浜海水浴場** 猫崎半島の付け根から約1キロにわたって美しい砂浜が広がる竹野浜は、透明度の高さで知られる人気の海水浴場。今でもシーズンには県内外から海水浴客がやってくるが、高度経済成長期には毎年50～60万人もの人が押し寄せ、浜は超満員、周辺はマイカーで渋滞するほどであった。〈豊岡市竹野町竹野・昭和50年代・提供=福田佳世氏〉

**胸が熱くなる  
思い出の  
情景がよみがえる！**

**懐かしい写真で  
振り返る  
ふるさとの一世紀**

**江原駅前** この年、第12回国民体育大会(静岡国体)のスキー競技が神鍋高原で行われた。関西初の国体スキー競技であったが、選手たちからは好評で、以降神鍋は「スキーの聖地」の名を高めた。最寄り駅の江原駅前には案内所が設けられ、駅前商店街の入口には歓迎アーチがかかる。その下をくぐり抜けようとするボンネットバスの後部にあるのはスキー板。〈豊岡市日高町日置・昭和32年・提供=戸田優子氏〉



**養父駅** 〈養父市堀畑・昭和45年頃・提供=藤原弘幸氏〉

**ご家族、ご近所、  
ご友人、みなさまで  
楽しめる！**



**出石お城祭り** 昭和43年、出石城の隅櫓竣工に合わせて行われた第1回出石お城祭りのようす。子ども大名行列が町内を練り歩いた。祭りは現在まで続く出石の恒例行事となっている。〈豊岡市出石町内町・昭和43年・提供=大石康之氏〉



**生野銀山** その歴史は古く、大同2年(807)に開かれたと伝わる。江戸期には奉行が置かれ産出量も増加したが、幕末には減少。明治に入ると政府の直轄鉱山となり、施設や技術の近代化が進んだ。その後、三菱に払い下げられ、戦後まで操業を続けたが、資源量の減少、採掘コストの悪化により昭和48年に閉山となった。〈朝来市生野町小野・昭和40年代・提供=旗谷稔氏〉

**600点もの  
貴重な写真を  
厳選収録！**

**余部鉄橋の補修工事** 橋の下の資材を橋上へ引っ張り上げるため、麦わら帽に前掛け姿の女性たちが力を合わせる。明治45年にできた余部鉄橋は、平成22年に現橋梁が建設されるまで地域のシンボルとして愛されたが、海にほど近い立地条件や冬の厳しさから、ひんばんな塗装や補修作業が必要であった。〈香美町香住区余部・昭和40年頃・提供=平井高男氏〉

